

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901852		
法人名	株式会社ケアジャパン		
事業所名	グループホーム永山亭		
所在地	旭川市永山4条22丁目4番12号		
自己評価作成日	平成24年9月30日	評価結果市町村受理日	平成24年12月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0172901852-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成24年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設時より、アニマルセラピーとして、各ユニット毎に、パピヨンとダックスフンドを飼育しており、利用者の方の役割として、エサやおやつをあげて頂いたり、一緒に散歩へ行き、スタッフと共に癒されています。
又、町内や他施設より行事の際等にお声を掛けて頂いたり、近所の方に避難訓練に参加して頂き、地域との交流を深めている。ケア理念に沿って、1人1人のペースや意思を尊重し、明るく楽しい生活を送って頂ける様にスタッフも共に生活する一員として、日々、笑顔を決やさずに明るく、楽しく介護させて頂ける様に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム永山亭は旭川市の北東部の永山地区に在り、その永山の「あづまや」という意味がこめられている。近くに大学(福祉学部も有)や幼稚園もある文教地区でもあり、二階建て2ユニットの建物はその学生や子供たちが行き交う通りに面している。窓からその様子を眺めることができ、心豊かになれる場面でもある。またボランティア活動や大学祭・運動会など交流も多くとられており、楽しみごとの一つにもなっている。玄関を入ると二匹のワンちゃんたちが尾を振りながら元気良く迎えてくれる。開設当時から暮らしており、利用者と共に年を重ね、仲間という存在でもある。一緒に生きていこうという気持ちを起こさせてくれ、「癒し」としての役目を十分に果たしてくれている。また、「りんごの木」のオーナーとなり、収穫時にはりんご狩りの外出行事としてりんごの味だけでなく楽しい思い出もたっぷり味わうことができている。職員は利用者を「亭主」として敬い、家族として理念の一つでもあるスタッフ自身が明るく、楽しく共に生活していくことの支援を常に心がけている。

V. サービスの成果に関する項目(1階アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で考えたケア理念を目に付く所に明示している。	基本理念4つの他に具体的なケアに繋げるために4つの方針が作成されている。ミーティングでは常に問いかけ、意見統一を図っている。日々のケアの中で利用者の笑顔を見ることが理念を実感できる場面でもある。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事やお祭り等に、スタッフ、利用者で参加し、地域住民との交流に努めている。	町内会の班長も勤め、町内会行事や近所の大学祭や幼稚園運動会などには積極的に参加している。普段の暮らしの中でも除雪や氷割りなどをお手伝いしてくれる方もいるなど、日常的な交流が常にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の行事等に参加して町内の住民の方との交流に努めている。又、町内の方も行事の声掛けをしてくれている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	家族の方や、町内の方の意見を聞き、サービスの向上に努めているが、業務に追われ、定期的な開催が出来ていない。	家族・町内会長出席の下、事業計画や事業報告・避難訓練についての話し合いがなされているが、今年には時間設定や出席者の関係から定期的な開催までには至っていない。	2か月に1回の開催ということは、ホーム内で当たり前になっている出来事や環境についてタイムリーな意見を得ることができるということでもあり、年次計画として取り入れ、メンバー構成の多様化などを含め定期的に開催ができるよう希望する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当職員の方と定期的に連絡を取り、相談や報告をしている。	地域包括支援センター職員の定期的な訪問が毎月あり、事業所情報の他に利用者の暮らしぶりを報告している。市の担当者とは困りごとの相談も電話で気軽に乗ってもらえる関係作りができています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在対象者は無く、拘束の無いケアに取り組んでいる。	スタッフ会議で常に話し合っており、職員の共有認識を図っている。日々のケアでも言葉をさえぎったり、気持ちを押しさえつけていないかを常に点検している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会は少ないが、スタッフ1人1人が、虐待の無い様に対応している。日頃の言葉使いや対応について注意し、防止に努めている。		

グループホーム 永山亭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現段階では利用者の方に対象者がいない為、学ぶ機会は設けていないが、研修のある際は、出席が出来る様に心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、書類や口頭にて、理解して頂ける様に説明を行うと共に、疑問点についても、分かりやすく説明し、納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に内部、外部の受付を記載している。又、苦情や意見があった際は、全スタッフに報告し、速やかに対応している。面会時等、意見を聞き出せる様に声掛けしている。	毎月写真入りの通信を送付しており、家族には大変喜ばれている。家族会もあり、行事への参加などを呼びかけている。訪問時にも積極的に声かけ、さりげなく意見を頂くようにしている。家族からの質問や要望にもすぐに対応できるようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や、スタッフ会議等で常日頃より、意見を聞ける様にしている。	月1回のミーティング、朝の申し送りでも意見を聞くようにしている。理念のひとつでもあるスタッフ自身が常に明るく楽しく実践すべく日頃からコミュニケーションを図るよう全員が心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修等の参加を推進したり、資格取得時には、給料の見直しをする等、働きやすい環境になる様、代表者は努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度勉強会の機会を設け、スタッフ各自で色々な課題を見つけ、発表し皆で共有している。又、ホーム外での研修も、希望者を募り、参加できる機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域包括のスタッフとの意見交換は行っているが、各自、研修に参加の際の意見交換は、充分とは言えない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より、ご本人、ご家族の方とアセスメントを行い利用者の不安の把握に努めている。又、日々、入居者の方の話に耳を傾け、不安の軽減が出来る様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時等、家族の想いや希望を聞き、その都度、相談や納得して頂ける様に話し合いし、信頼関係を築ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の問題や要望を配慮し、ご本人、ご家族と相談し、何が必要かを考え、利用者に合わせて対応が出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の今までして来た生活の形態や、経験を尊重し、生活の中で活かせる様に取り組んでいる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出行事等、案内を出し、一緒に参加して頂き、楽しんで頂ける様に努めている。又、月に一度写真付きの通信をご家族に送付し、近況報告を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の時間や制限を設けず、いつでも面会に来て頂いている。又、希望時には、電話等して頂いている。	家族との連携を密にすることを常に心がけ、つながりの継続支援をしている。またなじみの理美容院の利用や仏花の買い物同行など、一人ひとりの生活習慣を大事にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の中で、仲の良い人、悪い人が、はっきりしている為、トラブル等無い様に、レクリエーションの際は、必ずスタッフが入り、利用者、1人1人に気を配り、全員で楽しんで頂ける様に、努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のご家族の方から相談等あれば、対応させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望や意向を把握し、少しでも、希望や意向通りになる様に努めている。	センター方式を利用して半年毎にアセスメントを行っている。中央に本人の写真が入り、回りに本人の意向や希望が記され一目で今までの変化がわかるようになっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みのある家具等を持参して頂き、使用して頂いたり、一人一人の生活歴の把握が出来る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の現状を把握し、出来る事はご自分でして頂ける様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が中心となり、スタッフ、ご家族の方と話し合いをし、介護計画の作成をしている。	日々の記録と介護計画が連動できるようになっており、それを基に職員全員でモニタリングや意見交換を行い、本人・家族の思いを反映した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の記録を行い、スタッフ間の話し合い等にて、情報の共有をし、支援を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化があれば、スタッフ、家族間にて、話し合いを行い、ニーズに対応出来る様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域内の行事やお祭り等に、積極的に参加している。又、季節に合った行事を行い、楽しんで頂ける様に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族やご本人の希望に沿って対応している。又、往診対応の利用者に関しては、特変時等、医師に連絡し対応して頂いている。	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。訪問診療や緊急対応も可能であり、複数の医療機関と連携を結んでいる。また看護職員の配置もあり、健康管理・状態変化の支援と共に各医療機関への速やかな情報の伝達を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回、職場内の看護職員への健康相談を行った。往診の方は、訪問看護師に状況報告し、主治医との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、面会や病院と連絡を取り、状況把握に努め、ご家族とも相談し、早期退院を目指した対応が出来る様に、努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の方の意向を尊重出来る様に、主治医と相談し、連携を図っている。又、本人の苦痛や不安等を軽減し、ご家族の方が不安にならない様に、都度説明等を行う。	看取り対応指針が作成され、入居時には事業所が対応できる最大のケアについて説明は行っている。今後本人・家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、体制をどう整えていくかなどを検討しながら、取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防にて、応急手当や初期対応の講習を受けているが、全スタッフでは無い。マニュアル作成しており、マニュアルにて、再確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方の参加や協力も得て、実際の火災を想定した避難訓練を定期的に行い、消防設備の点検も行っている。	年2回行われており、夜間想定避難訓練も行われている。町内会からの参加・協力もあり、そのことで職員だけの誘導の限界も確認してもらっている。	災害は火災のみではなく、雪害・二次災害でもある停電なども想定される。その発生時に備えた食料・燃料・トイレ・防寒物品の準備が必要であり、早急に取り組まれることを希望する。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人のプライバシー確保を常に考え、声掛けや態度に気を付け対応させて頂いている。	呼称は基本的にはさん付けとしている。言葉かけも本人が自己決定しやすいように分かりやすくを常に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定や本人の希望を引き出せる様に、声掛けしているが、本人の意思や想いを十分に引き出せていない部分もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活リズムを把握し、出来る限り、入居者一人一人のペースを大切に、希望に沿った支援をさせて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容の方がほとんどであるが、パーマ、毛染め等、本人の希望に沿った対応をしている。又、希望があれば美容室に行ったりしている。		

グループホーム 永山亭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	肉が嫌いな人には、魚を出す等している。又、調理の下準備や食器拭き等、一緒に行っている。スタッフも利用者と一緒に食事をし、共に食事を楽しんでいる。	芋の皮剥きを競争して頑張ってくれたり、本人の能力合わせた支援を行っている。外食の際にはあらかじめ確認し、包丁やまな板持参で刻み食の対応も行うこともある。誕生日には手作りケーキで皆でお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事チェック表にて確認し、少ない方へは好みの物にて対応している。食事好みにも対応する等、常時観察を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝時、毎食後に、口腔ケアを行っている。自力にて出来る方は声掛け、見守りし、必要に応じ、仕上げを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を利用し、個別に排泄パターンを把握し、排泄はトイレを基本に、状況に応じ、声掛け、誘導させて頂いている。	トイレ誘導を心がけ、日中布パンツとパットのみに好転された方もおられる。夜間も本人に合わせた対応を行い、声かけしトイレ誘導を行っている方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、排泄表にて状況把握し、水分摂取や軽い運動を促したり、腹部マッサージを行う等、個々に応じた便秘の予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日、時間帯は決まっているが、本人の希望を取り入れながら、入浴日以外でも入浴できる様に個別に沿った支援をさせて頂いている。	1階はヒノキ造りで機械浴対応できる浴室とユニット浴室の2か所あり、2階はユニット浴室のみで重度の方が機械浴室を利用されることもある。本人の好みに合わせて選択することも可能で週2回入浴できるようにしている。利用者によっては同性介助の配慮もされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を無理せず促し、夜間良眠できる様に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用等、全職員に報告し、観察、状態把握に努めている。又、利用者の内服の内訳を見やすい位置に設置している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションの参加や、作品作り、日常生活のお手伝い等を一緒に行い、楽しみのある日常生活を送って頂ける様に努めている。		

グループホーム 永山亭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を取り入れながら、出来るだけ、外出の機会を設けている。外泊、外出は制限無く、ご家族にも協力を得て行っている。外出行事の際はご家族に案内を出し参加を促している。	毎年行事計画が作成され、夏場は散歩にドライブ・りんご狩りにと外出の機会が大変多く、今年最大のイベントは留萌の海への外出である。久しぶりの海に利用者の笑顔がたくさん見られた。冬場は外出の機会が少ないため、ホール内の歩行などで体力の低下防止に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が所持していた時に、無くなったと何度か訴えあり、ご本人、了承の上、事務所でお預かりし、必要な時に、手渡しして対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、その都度対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内は、季節に応じた展示物を掲示している。清潔にも細心の注意を払い、消毒の徹底もしており、心地よい環境作りに努めている。	ホール内の掲示は1階はみんなで相談して季節物を中心にしており、2階は行事の写真を活用することが多く、留萌の海の掲示物の前はいつも思い出に浸ることができている。また動物がいることで清掃や消毒には特に気をつけて、不快感を招かないように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士が、好きな場所で好きな時に、くつろげる様にソファーや1人掛けのイス等を設置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの物を使用して頂いている。職員と一緒に作成した作品や、ご家族からの写真を飾る等、利用者さんが、過しやすい空間作りに努めている。	仏壇を持ち込まれた方もおり、仏飯・仏花の用意などを利用者と共にしている。現在備え付けの普通ベッドであるが、重度化に伴いホームとして徐々に介護用ベッドに切り替えていく予定である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面では手すりや、入浴時には滑り止めマットを使用し注意を払っている。又、個々の状態に合わせた対応に努めている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901852		
法人名	株式会社ケアジャパン		
事業所名	グループホーム永山亭		
所在地	旭川市永山4条22丁目4番12号		
自己評価作成日	平成24年9月30日	評価結果市町村受理日	平成24年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設当初より、各ユニット毎にアニマルセラピーとして、パピヨンとダックスフンドを飼育しております。来客の方には、吠えたりしますが、入居者の方には吠えず癒しの時間を作ってくれています。又、車イスの方でも安心して入浴して頂ける様、機械浴の設置にて不安なく入浴を楽しんでいただいています。町内の方との地域の行事等を通して関わりも増えて、避難訓練の際にはお手伝いに駆けつけてくれる等交流も増えてきています。入居者の方には、一人一人のペースや意思を尊重し、毎日安心とゆとりある生活や、明るく楽しく生活して頂ける様、スタッフも生活する一員として、日々笑顔を決やさず明るく楽しくをモットーに介護させて頂いています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosoCd=0172901852-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成24年11月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(2階アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り、スタッフがその理念を共有し、理解してもらい統一したケアが出来る様努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会しており、お祭りや行事等に参加させて頂いている。又、挨拶や廃品回収への参加等により交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の開催により、町内会長との交流も増え、町内の行事等には率先して声をかけて下される機会が増えてきている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会や町内会等の意見を聞き入れ、サービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当職員には、定期的に報告・相談・質問等を行い説明を受け、協力を得ている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフミーティングでの話し合いや、各自での勉強等で、どのような事が拘束に該当するのか、又いかに拘束をしないで支援が出来るのか等を考え、問題発生時など検討をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	防止法については学ぶ機会が少ないものの、虐待のないようスタッフ一人一人の意思づけや、打撲跡についても、スタッフ間で共有し原因の究明をし、日々虐待のないように努めている。		

グループホーム 永山亭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	最近はこのような勉強会が出来る機会があり、参加してみたいとは思っているが、まだ実現は出来ない。今後は勉強会の参加により、スタッフと共有したいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、書類や口頭にて理解して頂ける様説明を行い、疑問点についても分かりやすく説明をし理解して頂いている。改定時なども文書を用いる等をし、家族への理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事務所窓口に意見箱の設置をすると共に、重要事項説明書に内部・外部とも受け付けの記載をしている。又、苦情や意見があった際は、全スタッフに報告すると共に、速やかな対応をしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のスタッフ会議や、朝のミーティング、日常での意見交換をしていき、スタッフ個人個人から意見を聞き出せるように工夫をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得時や勤務状況により昇給や給料の見直しをしている。働きやすい環境を作れるよう代表者は努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度勉強会の機会を設け、スタッフ1名ずつではあるが、各時勉強をしてみたい事を発表し、皆で共有している。会議時に再度基本に戻り、介護方法の確認をしたりし、スタッフ同士で勉強会や日々スタッフのやり方を見て、学ぶ機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の参加等で、同業者と交流を図ったり、意見交換が出来る様に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前よりご本人、ご家族の方でアセスメントを行い、利用者の方の不安の把握に努めています。又、日々利用者の話に耳を傾け、不安の軽減が出来る様に取り組んでいる。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時等、ご家族の思いや希望を聞き、その都度相談や納得して頂けるよう話し合いをし、信頼関係を築けるように努力している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の問題を把握し、何を必要としているかを見極め、対応をしている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の今までしてきた生活の形態や経験を尊重し、生活の中で活かせるように取り組んでいる。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方も一緒に参加が出来る行事を取り入れ、共に楽しんで頂いたり、ご家族の方の協力を得ながら、本人が不安なく生活を過ごせるよう、面会の協力をお願いしている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の時間や制限を設けず、いつでも面会に来ていただけるよう対応している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り、会話の手助けをしたり、共通の会話で、楽しめる環境作りを提供している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば対応をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でコミュニケーション等を通し、得た情報を元に本人の希望、意向を把握し反映出来る様努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の方から得た情報や、本人との会話の中で知り得た情報を職員で共有し、把握をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の体調や、コミュニケーションを通し精神状況を把握し、一人一人にあった1日の過ごし方を支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が中心となり、本人の状態を把握し、ご家族や全職員の意見を取り入れ、ケアプラン作成に活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は全職員にて行っており、ケース記録にケアプランを挟みチェックを行なっている。全職員が確認をし情報共有、意見を反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の望んでいる事を見極めて、柔軟に対応出来る様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	旭川大学のボランティアの呼びかけや、ボランティアの受け入れを行なっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や、ご家族の希望される医師や病院を入所後も通院対応をしている。必要に応じ、往診などで連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回看護スタッフによる健康相談の実施や、毎日のバイタル測定などにより、知り得た情報を医師に伝え連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は面会や、病院関係者との連絡をとり、状況の把握に努めて、ご家族の方と相談をしながら柔軟に対応をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人やご家族の方の意向を尊重し、医師と相談をしながら本人や、ご家族が安心出来る様、都度状況を報告、説明を行なっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成をし、スタッフミーティングでの勉強会や消防職員の指導のもと、訓練を行なっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間を想定しての避難訓練や消防職員の指導のもと、消火訓練も実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ間での話し合いや、個別の支援に重点を置きプライバシーの確保に努めている。又個人情報の管理についてもスタッフで周知徹底をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定しやすいような声掛けの工夫や、支援を行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の時間のペースに合わせた支援を行い、希望などがある場合には、可能な限り対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容にて対応をしている。		

グループホーム 永山亭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はスタッフも一緒に摂取し、会話をしながら楽しんで頂ける様配慮している。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分食事チェック表にて確認をし、制限のある方の管理や摂取量の少ない方は代替りのものに対応や、又各個人の好みに対応出来るよう常時観察を行なっています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝時、毎食後に一人一人口腔ケアを実施している。自力にて出来る方は見守りをし、必要に応じて仕上げをしたり、歯間ブラシ使用にて対応している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表を利用し、個人ごとの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を基本にし状況に応じて、声掛けや誘導を行っている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分排泄チェック表を利用し、状況の把握をし毎日の体操や水分を促したり、腹部マッサージ等を行い個人に応じた便秘予防や医師との連携を図り、薬にて排便のコントロールを行なっている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間帯の決まりはあるが、個人の希望を取り入れながら入浴日以外でも応じれるように、努めている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を無理なく促し、昼夜逆転せずに、夜間帯に良眠出来る様に努めています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用、用法、用量は医師からの話を全スタッフで把握し、状態観察を行なっている。又、個人の内服内訳を、スタッフの見やすい場所に設置している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1ヶ月に1~2回位の割合で、行事予定(外出も含め)があり、全員で出来る様なレクリエーション等を、日常生活の中で送れる様に努めています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自ら訴えのする方がいないが、行事予定での外出や天気の良い日などは近くへの散歩などを実施している。ご家族の方の面会にて、外出や外泊等の希望には、体調面での理由のない限り行なっています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はほとんどの方が事務所管理にてスタッフが対応しているが、中には少量の金銭を持っていたという方もおり、その方の希望に添えるよう対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在は対象者がいない為行なってはいないが、希望があった際は、その都度対応出来る様にしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	歩行の妨げにならず、混乱を招くことがないように配置をし、環境整備を行なうと共に、消毒の徹底をしています。又、季節感や日光を取り入れ、壁にはスタッフが季節に応じた飾りや、外出時の写真などを貼り、皆で楽しめるように努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファは1人用、2人、3人用と様々なイスを用意をし、その方に合った居場所の提供をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その方の落ち着ける居室となるよう、馴染みのものを自宅より運んでいただいたり、写真や誕生日カードを壁に貼り、明るい居室や本人の希望に沿えるよう配置をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりの設置があり、入浴時には滑り止めマットを使用し安全に努めている。又、その方の状態にて夜間帯はポータブルトイレの設置などにて話し合い検討している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 永山亭

作成日：平成 24年 12月 7日

市町村受理日：平成 24年 12月 11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議が、日常業務に追われてしまい、開催が定期的に行なわれていない。	定期的に運営推進会議が開催出来る様、取り組んでいく。	年次計画案に最初から何月に開催するなどの明記をし、地域の方や役所の方への働きかけをしていくことで、時期がずれないように、始めから取り決めしておくことを検討する。	12ヶ月
2	35	災害に関する訓練はしているが、備蓄の準備等はおらず、いざという時に問題になることが考えられる。	災害訓練の強化と備蓄の準備をし、いざという時の為に万全な体制をとる。	必要な物品等の把握をし、準備をすると共に、保管場所の確保の検討と点検を随時行なう。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。